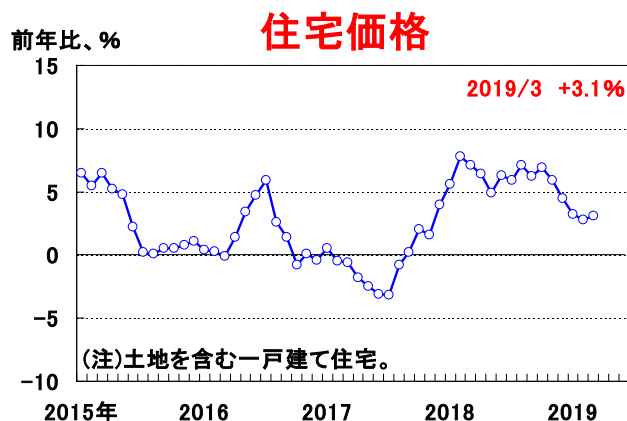
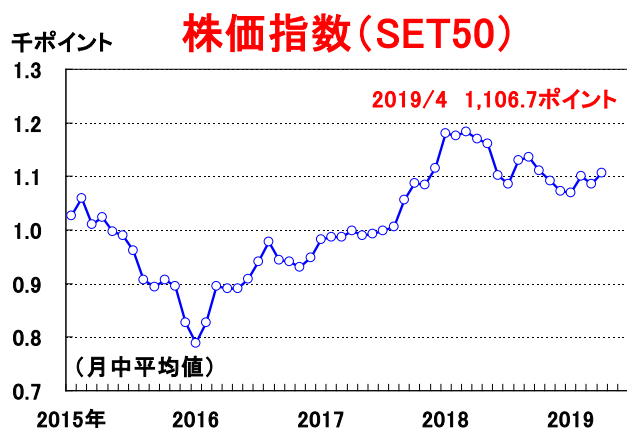
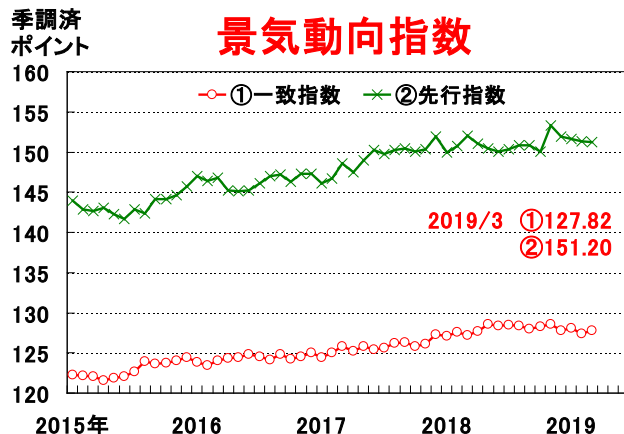
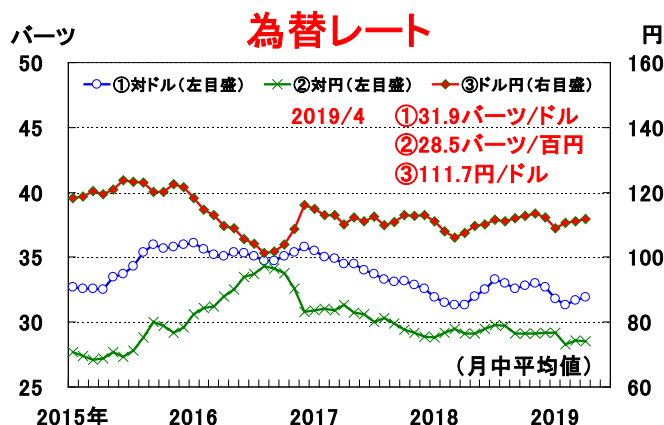
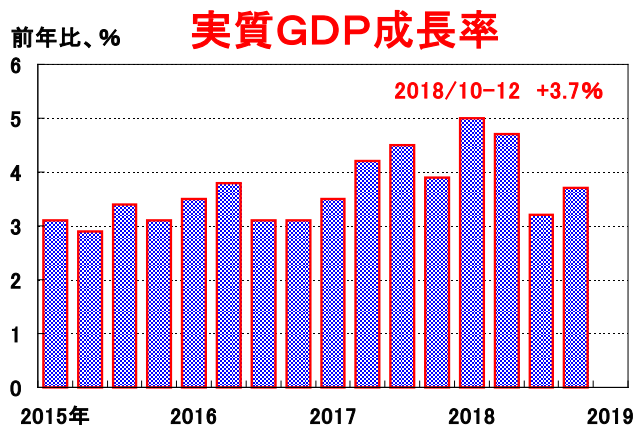
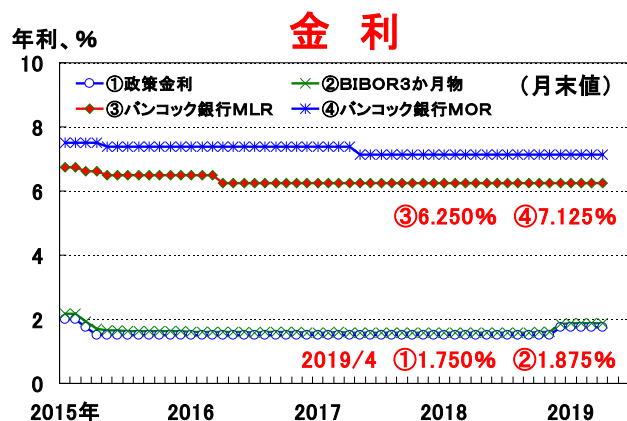


グラフで見るタイ経済 2019年5月号(No. 119)

タイ景気は緩やかに減速している。企業部門をみると、3月の輸出は前年比-4.9%(前月は同+5.9%)と前年水準割れに転じ、主力産業である自動車の生産台数も同+1.8%と2か月連続で増勢を弱めている。4月の企業景況指数は49.2(前月は51.4)と中立水準の50を下回り、企業マインドも足元で悪化している。家計部門に関して、個人消費指数が前月比-0.2%(前月は同-0.1%)と2か月連続で下落している。内訳をみると、外国人観光客消費やサービス消費が復調したものの、非耐久財消費は2018年9月以来の低水準にとどまった。



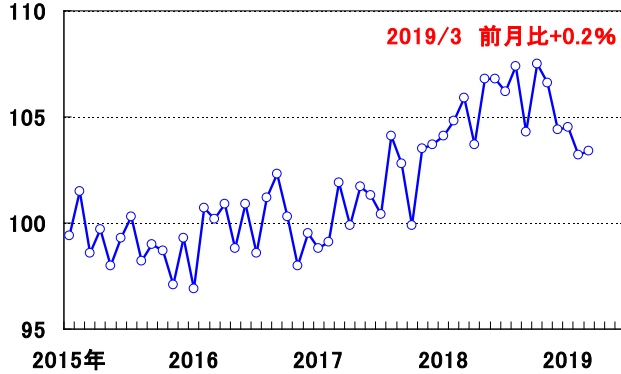
【今月のトピック: 懸念される干ばつによる経済への悪影響】タイ東北部では、降雨が少なく、水不足となっている。専門家の予想によると、今年の乾期はエルニーニョ現象の影響により平年に比べ気温が1~2度上昇し、干ばつとなる可能性が高い。干ばつが発生した場合、GDPの約9%、雇用者数の約3分の1を占める農業部門が打撃を受けることが懸念されている。不作により農産物が高騰すれば国内消費が冷え込むほか、コメを始めとした輸出にも悪影響が及ぶことになる。政治の混乱が続いているため、政府の干ばつ対策が後手に回ることを懸念する声もみられる。

(出所) タイ中央銀行、タイ国家経済社会開発委員会 (NESDB)、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。

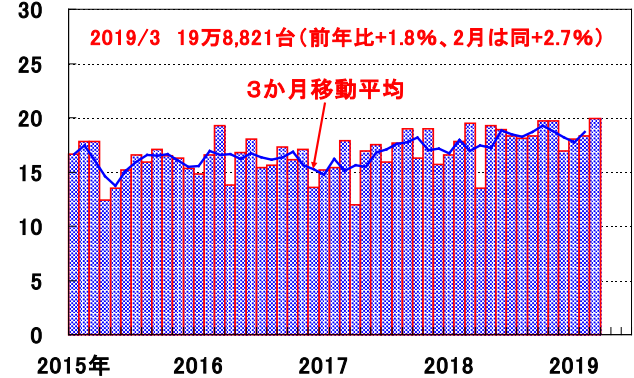
季調済
2011年=100

工業生産指数



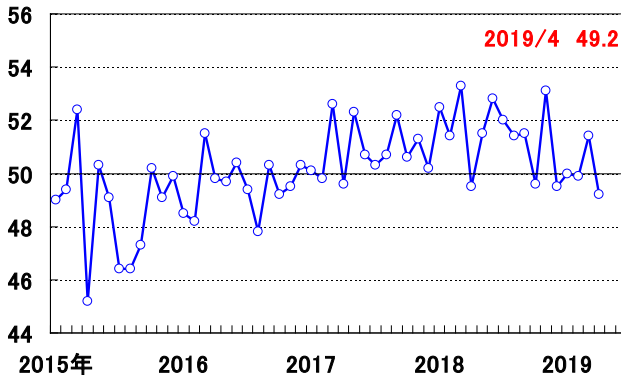
万台

自動車生産台数



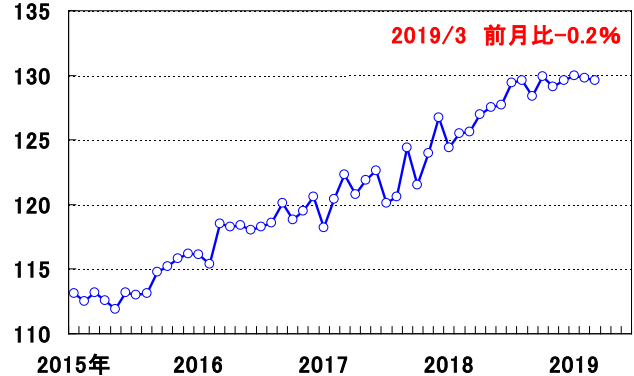
中立水準=50

企業景況指数 (BSI)



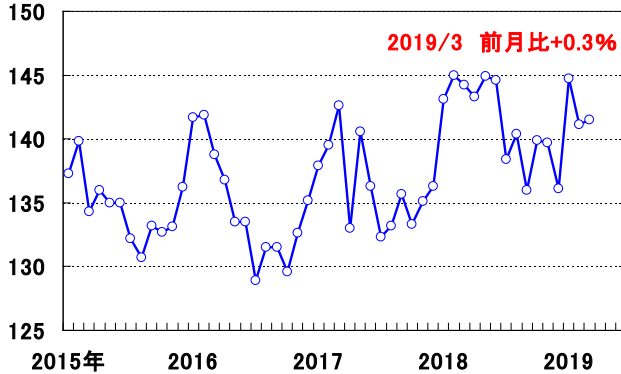
季調済
2000年=100

個人消費指数



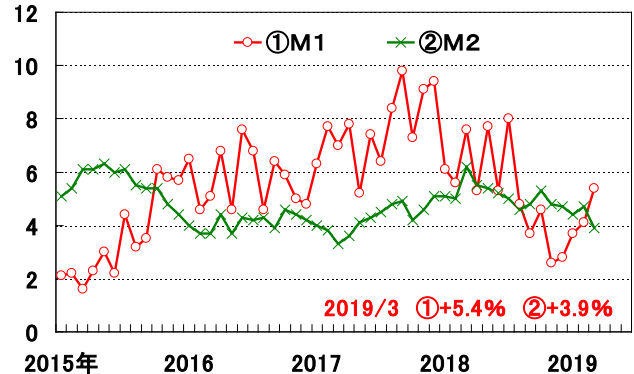
季調済
2010年=100

民間投資指数



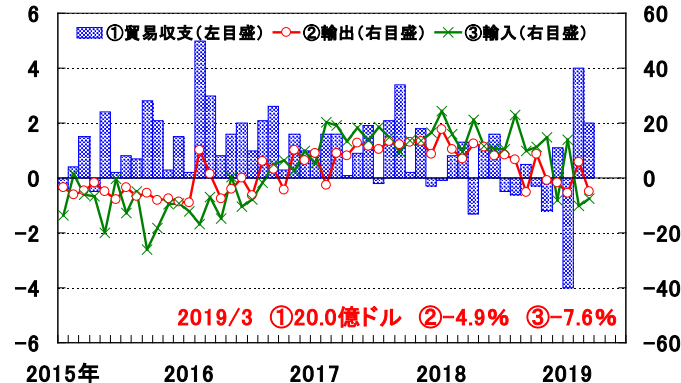
前年比、%

マネーサプライ



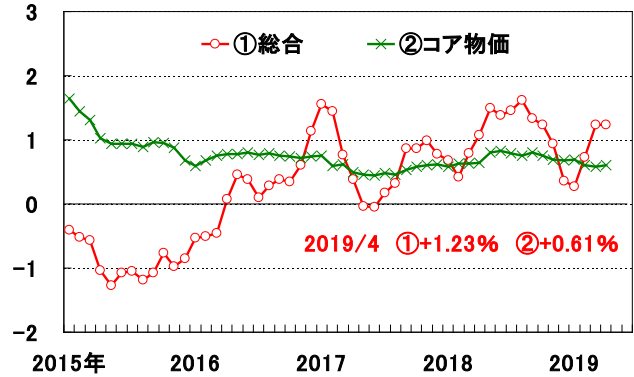
10億ドル

貿易収支



前年比、%

消費者物価指数



(出所) タイ工業省、タイ中央銀行、タイ国家統計局、タイ工業連盟 (F T I)

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用にはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。